

1 はじめに

こども文化科学館は、1980年(昭和55年)5月に、「おどろき・夢・ロマン」をテーマとして、日本初のこどものための博物館として誕生した施設であり、開館以来、「みる、ふれる、ためす、つくる、たしかめる」という体験的な手法を通して、科学や文化に関する興味・関心を高め、創造する心を育てることを基本方針として、参加体験型の常設展示のほか、プラネタリウムや、こども劇場、音楽会、科学教室・創作教室など、こどもたちを中心として楽しみながら学べる多彩な事業を展開してきました。

開館から40年以上が経過し、施設の老朽化が進んでいることに加え、耐震化も未実施であること、また、常設展示の展示内容については、20年以上大規模な更新がされていないことから、施設の耐震及び長寿命化の改修と合わせて展示内容のリニューアルを行うこととし、市民アンケートやこども文化科学館のスタッフ、有識者等からの意見聴取などを踏まえ、2023年(令和5年)5月に展示リニューアルの方向性等を内容とする「広島市こども文化科学館展示リニューアル基本構想」を策定しました。

【広島市こども文化科学館展示リニューアル基本構想(展示リニューアルの方向性)】

1 基本的な考え方

- ① 科学の原理・原則から最先端技術まで体感できる展示の充実
- ② 参加体験型展示の更なる充実

2 4つの視点

- ① 広島の魅力発信(地元企業等との連携強化)
- ② 幅広い世代が科学を楽しみ、学べる展示展開
- ③ より深い学びのための交流機会等の充実
- ④ 社会的な課題に対する学びの充実

この基本構想を踏まえ検討を行った新たな展示内容とともに、建物内のゾーニング(併設することも図書館や一部機能移転を予定している青少年センターを含む。)などについて、2024年(令和6年)2月に市民の皆様からの御意見等をいただくためのパネル展示及びアンケート調査を行い、このたび、各展示ホールの展開や新しい展示内容のイメージなどを内容とする「広島市こども文化科学館リニューアル基本計画」を策定しました。

今後は、この基本計画に基づき、建物内の具体的な配置計画(ゾーニング)等を定めた基本設計・実施設計に着手します。

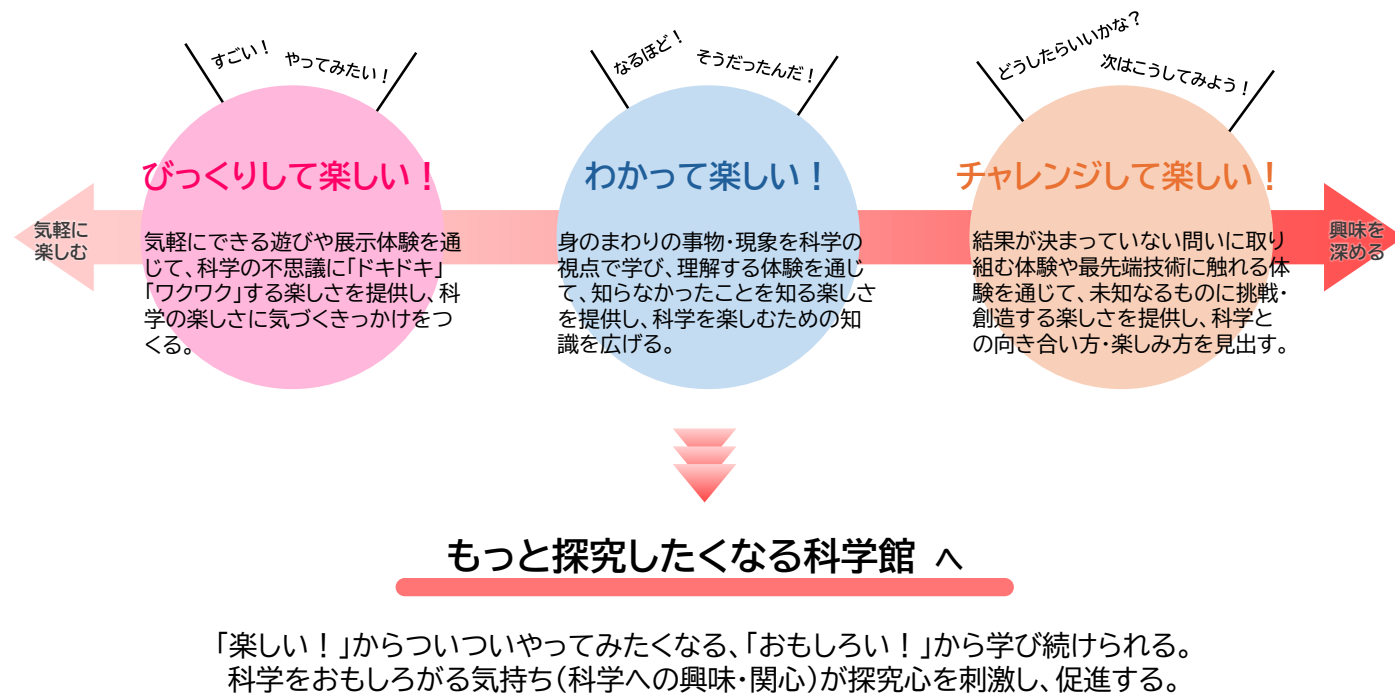
2 リニューアルの内容

(1) 常設展示等

① 常設展示

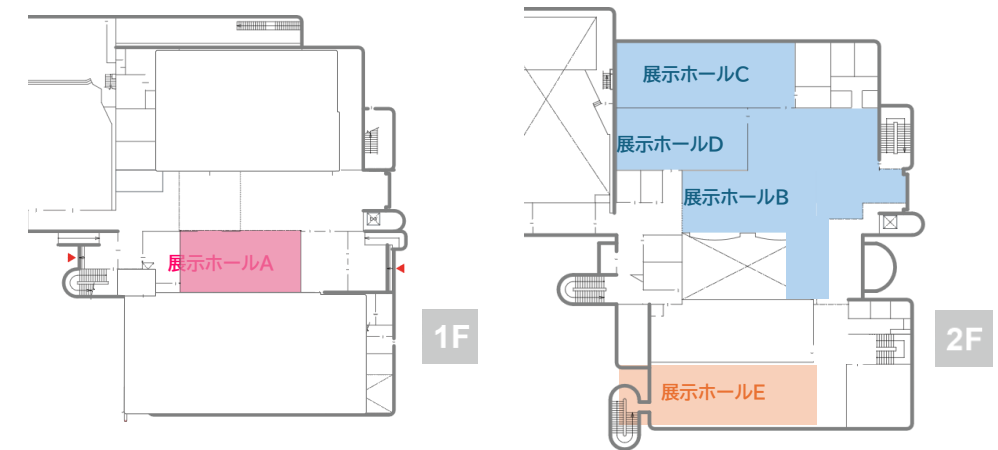
ア 基本的な考え方

基本構想における3段階の展示展開の考え方(「驚きと不思議」、「発見と学び」、「創造とチャレンジ」)を踏まえつつ、来館者の興味の深度に合わせた、3つの“楽しい!”を感じられる展示体験を提供し、「もっと探究したくなる科学館」を目指していきます。



イ 展示ホールの構成

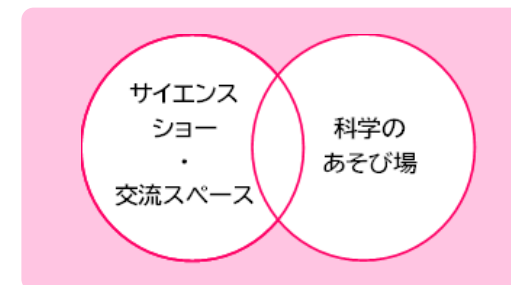
3つの“楽しい!”を感じられる展示体験を提供するため、以下の3つのテーマで展示ホールを構成します。なお、各展示ホールのレイアウトは現段階でのイメージであり、今後実施する基本設計・実施設計において詳細を検討します。



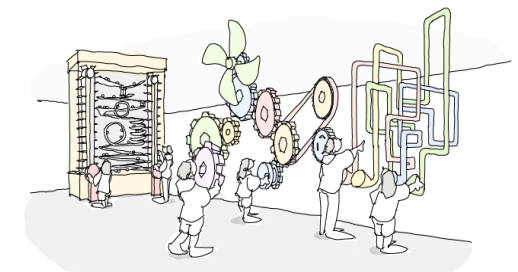
(ア) 展示ホール A〈テーマ:ふしぎを感じよう!〉

サイエンスショーや、科学の特性を生かした遊び体験を通して、驚き、楽しみながら科学の不思議を体感できるエリアとします。

●構成イメージ



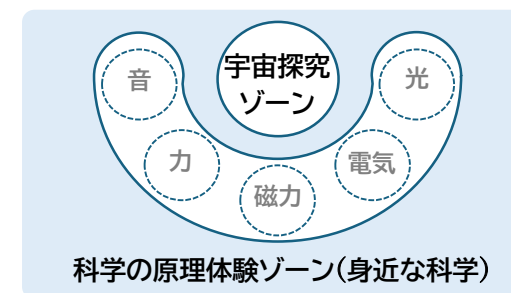
●科学のあそび場



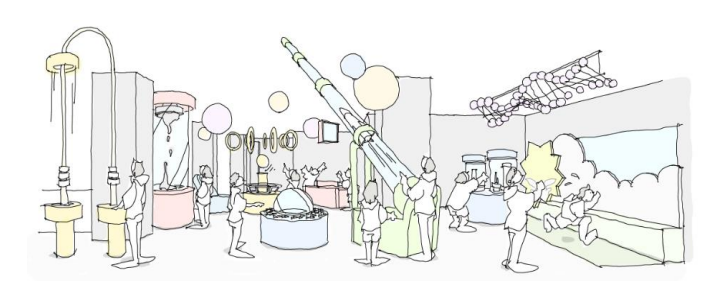
(イ) 展示ホール B・C・D〈テーマ:学んで知ろう!〉

光、電気、磁力、力、音など身近な現象や事物に触れ、科学の原理・原則を学ぶ「科学の原理体験ゾーン(身近な科学)」と、美しく、不思議いっぱいの宇宙の魅力に触れその謎に迫る「宇宙探究ゾーン」で構成するエリアとします。

●構成イメージ



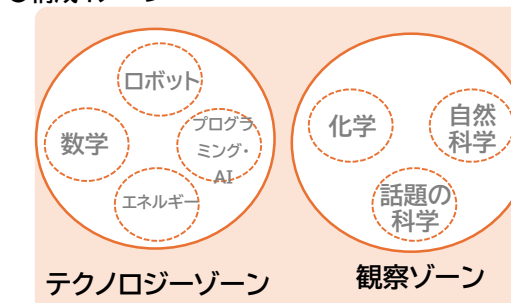
●科学の原理体験ゾーン(身近な科学)



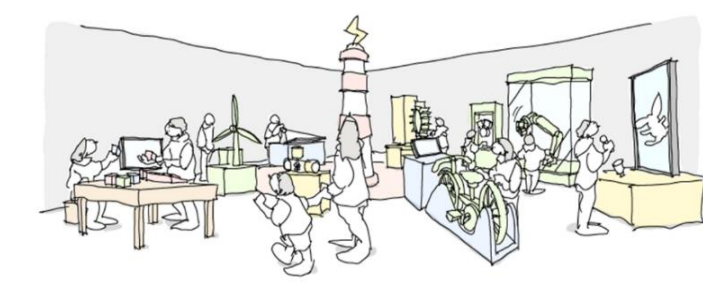
(ウ) 展示ホール E〈テーマ:考えてやってみよう!〉

最先端の科学技術やものづくり技術に触れることができる展示など、科学の応用を考えてみる「テクノロジーゾーン」と、研究の基本である「観察」を体験する「観察ゾーン」で構成するエリアとします。

●構成イメージ



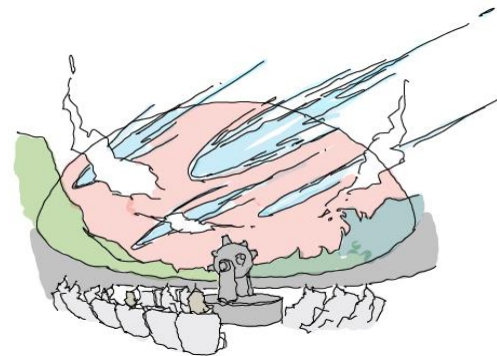
●テクノロジーゾーン



② プラネタリウム事業

学習投影だけでなく、スタッフによる解説やオリジナルコンテンツの投影、星空コンサートなど、プラネタリウム空間を活用したイベントを展開します。
また、開館以来、更新していないドームスクリーンについては、くすみやしわ等のない完全球面形状の新たなスクリーンを設置します。

- (例)
- ・ドームスクリーンを活用したクリエイティブな映像作品の上映会
 - ・ドーム映像や星空を生かしたライブパフォーマンス
 - ・美しいドーム映像や星空の下での睡眠を体験する星空瞑想イベント

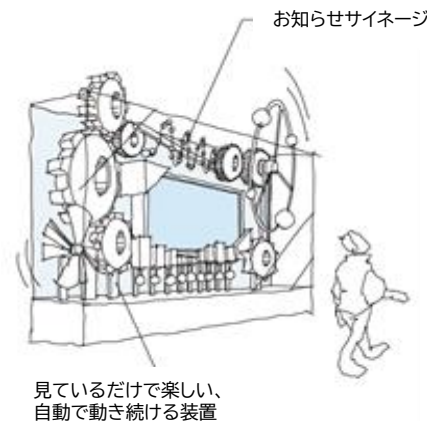


ドームスクリーンを活用した映像作品の上映会

③ その他展示等

展示ホールだけでなく、屋外の壁面や通路、トイレ等の共用スペースにおいてもミニ展示やグラフィックで科学要素を散りばめることで、館全体が不思議と出会える空間とします。

- (例)
- ・屋外壁面(ショーケース)の活用(カガクカラクリサイネージ)
 - ・館内の展示をモチーフにした様々な装置が詰まった屋外ショーケースを設置。中央にはサイネージがあり館内のイベントやお知らせを表示
 - ・屋内壁面の活用(地上から宇宙空間への旅に見立てたグラフィック表示)
 - ・トイレの工夫(トイレの内装に宇宙空間を再現するなど)



見ているだけで楽しい、自動で動き続ける装置

(2) ソフト事業

① 企画展示

科学技術に関する最新の研究成果やスポーツ科学、広島発のテクノロジーやノーベル賞、地球温暖化やエネルギー問題といった社会的課題など、科学と身の回りの生活とのつながりや社会との関わりを実感することができる幅広いテーマを題材とした期間限定の展示を行います。

- (例)
- ・広島発のテクノロジーに潜む魅力や不思議を見つける「広島発のテクノロジー展」
 - ・夏休みの自由研究のヒントとなる「自由研究アイデア展」



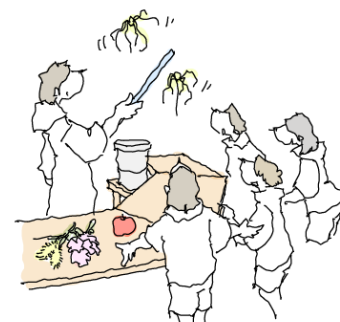
広島発のテクノロジー展

② 教育普及事業

ア 出会う事業（来館者とスタッフとのコミュニケーションを重視）

来館者とスタッフとのコミュニケーションを重視した科学実験などを館内のサイエンスショー・交流スペースや、中央公園の「こどもゾーン」など館外で実施します。

- (例)
- ・低年齢層から大人まで楽しめるライブ感あふれるサイエンスショー
 - ・科学を気軽に学びたい層を対象とした参加型のテーブルサイエンス方式の科学実験
 - ・全年齢層を対象とした気軽に作れる内容のフリー参加型工作教室



テーブルサイエンス

イ 深める事業（幅広い世代を対象とした様々な教室の開催、学習支援活動の充実）

実習等を行うスペースにおいて、こどもから大人までの幅広い世代を対象に、文化・科学・工学からものづくりまで、様々な内容の教室を開催します。
また、学校の授業に組み込むこともできるプログラムの開発・実施や教員を対象とした科学教育の指導力向上研修など、学校現場に必要なとされる理科学習支援活動の充実に向けて取り組みます。

- (例)
- ・年齢に応じた、モノづくり・プログラミング教室
 - ・各学年の学習項目にあわせたワークシートの開発
 - ・学校の教員向けに、授業で使えるものや、こどもが興味を持ちやすい展示を中心に紹介する展示ガイドツアー

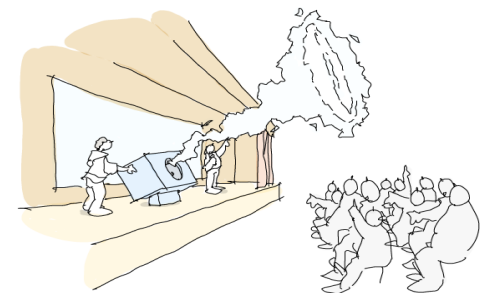


プログラミング教室

ウ ふれあう事業（ホールの多目的活用による様々な事業展開）

こども音楽会やこども演劇、各種講演会などの文化イベントや大規模なサイエンスショーを実施するとともに、こども図書館や青少年センターと連携して中高校生向けの音楽会や演劇、研究者や技術者、クリエイター等による幅広いテーマの講演会(トークセッションなど)を開催するなど、ホールを多目的に活用した様々な事業を展開します。

- (例)
- ・未就学児とその保護者等と一緒に楽しめる音楽会や演劇
 - ・話題の科学テーマに詳しい研究者や技術者によるトークイベント
 - ・こども図書館と連携した講演会



大規模なサイエンスショー

(3) 企業等との連携

ものづくり産業を始めとする地元企業や大学等有する多様な最新技術等に触れることができる機会を提供することにより、広島ならではの魅力を発信するとともに、未来を担うこどもたちが、ものづくりに対する興味・あこがれを抱き、将来の職業等を考えるきっかけとします。

① ソフト面での連携

- 「青少年のための科学の祭典(広島大会)」への出展(毎年10月頃)
企業等有する科学技術と関連したテーマの実験や工作教室等を行うブースを出展します。
- 教室やサイエンスショーなどの開催
企業等有する科学技術と関連したテーマの実験や工作教室等を開催します。
- 工場等への見学ツアーの実施
ものづくり産業など、普段入ることができない工場を見学するツアーを実施します。
- 企画展の開催
企業等との共同により企画展を開催します。



四国電力とのサイエンスショー開発(高知みらい科学館)

② ハード面での連携

- 展示物の共同製作
企業等との共同により展示物を制作します。
- 館内整備・展示への協力
企業等から製品等を提供いただき、館内設備で活用します。また、企業等の事業内容や科学技術に関する展示を行います。



企業展示ブースの出展(福岡市科学館)

(4) 案内サインの工夫等

① こども文化科学館、こども図書館、青少年センター3施設それぞれの利用者にとってわかりやすい案内サインの工夫

- ・3施設の複合化に伴い、利用者がスムーズに目的の施設に着くことができるよう、案内サインのルールを作成します。
- ・館全体の総合案内サインを新たに作成することで、利用者が目的以外の施設の情報に触れる機会をつくれます。

② 多言語対応のルールづくり

- ・室名などの主要な情報は多言語表示とするなど、多言語対応のルールを作成します。
- ・ピクトグラムやアイコンを積極的に使用し、外国人の利用者や未就学児にも伝わる工夫をします。

③ デザイン等への配慮

- ・誰もが認識しやすいよう、コントラストや色の組み合わせに留意したデザインとします。
- ・遠くからでも判別がつきやすい書体を使用します。
- ・サインの機能に応じて視認距離を設定し、適切な大きさの文字を使用します。
- ・こどもの目線の高さなどに配慮してサインを設置します。

3 リニューアルのスケジュール

区分	令和6年度 (2024)	令和7年度 (2025)	令和8年度 (2026)	令和9年度 (2027)	令和10年度 (2028)
展示リニューアル	基本・実施設計		展示製作・工事		
(参考) 耐震・長寿命化改修	基本・実施設計		改修工事		

リニューアル
オープン

※令和8年度から令和10年度にかけて工事により休館する予定です。なお、休館中は、学校や地域等での出前講座や出張展示、サイエンスショーの実施など、アウトリーチ型のプログラムに取り組むこととしています。